謹賀新年

津奈木

前史九吉

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話　（代表115番）
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）代表 ②3117番

新年おめでとうございます。

町政をあずかって日も浅いので、過去をふり返ることを止め、将来の見とおしについて、述べてみたいと思います。

二次農業構造改善事業が、県下九町村の一つとして本町が予備指定されました。三億円の補助一億円の融資を利用することによって、第一次でのひずみ、行きわたらなかった不公平が解消され、農家の経営改善ができると期待を大きくしています。

なお、二次構造改善の指定以前に順序として農振法に指定されなければなりません。農振法の指定も狭き門で、県下十五町村に限られて、津奈木町が十二番目というところです。この指定を受けると果樹の外畜産とか、その他の農業部門に利益を得られます。

過疎地域にも指定されています。人口流出がはげしいためで、喜ぶべきことではありませんが、このたらされます。例えば保健相談室教員住宅建築費補助など沢山の項目援助が予定されています。

更に希望と明るさを感じることは、芦北・水俣沿岸開発であります。

政府は今後の開発構想の中に、総合的な海岸開発を具体化しつつあります。県は県で、国の施策に対応して八代海総合開発を計画しています。このようなとき、芦北・水俣海岸の特殊性を最高度に生かして、道路港湾の整備、工場誘致

年頭の辞

津奈木町長　鶴田宣尊

海浜レクリエーションの建設・水産資源の開発などを推進することを芦北四町と水俣市で申しあわせ、すでにその陣容もととのって活躍に胸ふくらむ感じがします。

これに対する本町の占むる比重は大きいと思っています。

希望多き七〇年

議会議長　福村広人

町民の皆様明けましておめでとうございます。

過ぐる昭和四十四年は、沖縄の日本復帰約束の年であり、人類が宇宙開発への限りなき夢、即ちアポロの月面着陸の実現、内にあっては国民総生産が西独を凌いで遂に第二位に躍進し、その半面、一般国民は高物価に悩み、殊に私達農村にとって一大関心事は米の生産調整の問題、グレープフルーツ貿易自由化に起因する甘夏の問題等、大きな波紋を生じた年でありました。

過疎に悩む本町においても過疎対策立法が、参議院で廃案となったことはまことに残念でなりません。

本年は七〇年代の幕あけの年でもあり、私達も新時代に対応する本町自治の未来像を町民の皆様の総意と英知を結集し、議会もこれと相呼応して大胆に描き、豊かな明るい町づくりに鋭意努力してまいりたいと思います。

それには先ず前斉藤町長が心血を注いで来られた津奈木干拓の高度利用（工場誘致）を、現鶴田町長も継承されて前進される方針だし、又議会も執行部と一体となり、その実現に全力投球して行く決意であります。

更に農政面では多事多難の年でありますが、現実を直視し、未来をよく見定めて、現在の難局を打破してゆくためには、四十四年度より農林省が実施する二次農業構造改善事業の指定を本町が受け、それを充分活用することにより、農政の体質改善を求めることも大いに必要と思います。

年頭に際し町民各位の一層の御健闘を心からお祈りしてごあいさつと致します。

お詫び

十二月発行（一五六号）の公民館報で発表しました役場職員の事務分掌に誤りがありましたので、左記のとおり訂正して、おわびいたします。

税務課長補佐　下川喜代次
町民課長補佐　藤本　兵吾

祝電

成人の日に成人式があるものとして一月十五日に祝電がきました後になりましたので、公民館報を通じてお伝えします。

○文部大臣　坂田道太氏
○衆議院議員　吉田重延氏
○衆議院議員　福永一臣氏
○参議院議員　園田清充氏
○伊藤昭夫さん（日当）
○釜　忠彦さん（桜戸）
○大園和八郎さん（浜崎）
香典返しとして金一封
何れも町社会福祉会へ
○山口　敦さん（桜戸）
保育園にテレビ・プレーヤー
各一台寄附
以上の方々に厚く御礼申し上げます。

御礼

青年に敬服

町発展に青年の力を

去る十二月十三日十四日の阿蘇青年の家に、津奈木青年団四十五人のお供をして行ったときのことである。

夕食後、その晩泊りあわせた団体十いくつ、人員四百十一名が参加して、講堂でキャンドルのつどいがあった。

津奈木でやる成人式のキャンドルサービスは知っているが、それとは少しは違うので、とまどうことが時々ある。

歌の段になって、こちらはその歌がどこに印刷してあるのかわからずにオロオロしていると、となりにいる青年が手早く教える。

余興が津奈木青年団の番になる。種目は何をやるのだろうか、笑われるようなものではなかろうか。心配がつきないでいると、勇んで出場、進行するにつれて大喝采、終って拍手の音は高く、笑いのウズは大きかった。「よくやった」と安心し、肩身も広くなった。

そんな風でこちらは貰われた猫のように小さくなっている反面、青年はわが家に帰ったように、勝手を知りつくし、手間とることなく、ためらうことなく、自由自在である。

そして思った。「若い者にはかなわぬ」と。

そして更に思ったことは、これが町でこのように、率先して、自信をもって、団結して、産業にスポーツに生活改善に社会開新にリードして行ったら津奈木はどんなに発展するかしれないだろうかと。青年よ自重せよ。

老人いまだ老いず

浜老人会の清掃奉仕

浜老人会鶴亀会（会長西川渡さん会員五十三名）は、昭和四十一年四月の発足以来、目標である

※会員の教養の向上
※会員の健康の増進
※会員の親睦とレクレーション
※地域社会との交流

に向って会員協力一致して数々の実績を挙げ会員はもとより地域の人々にもよろこばれている。

昭和四十四年中も浜公民館を会場に十回の例会を開いて、講師を招いて講演をきいたり、会員のかくし芸でレクレーションを楽しんだり、水天荘への一日遠足でシワをのばしたり、等々会員は例会の日を楽しみに待ちわびている状態である。

又老人相応の社会奉仕もやっているが、毎年全会員でゾーキンをつくって、小学校に寄贈してよろこばれている。

旧年十二月例会の席上、部落の中央を流れる新川が汚物のため、あまりに不潔なのを気にしていた西川会長が環境美化のため老人会の社会奉仕として新川清掃を提案したところ、たちどころに全員一致賛成、十二月八日午前十時から清掃奉仕作業実施が決議された。

たまたま当の十二月八日は折り悪しく、小雪まじりの寒風の吹き荒れる老人の作業日としては最悪の日であったが、それでも二十名ばかりの男女会員は定刻に集り三班に分れて川の中に散乱していた汚物を取除き、排水をはかり、雑草を刈りとる等々、昔とったキネヅカ？若者顔まけの元気さで作業をおわった。

ホホをきすような寒風の中、二時間ばかりの作業で見違えるようにきれいになった川の面を眺める老人達の顔には満足さがあふれていた。

近頃川がチリステ場のようなことになって年々不潔になり心ある人達をなやましているところもあるが、こんな時節に浜老人会の清掃奉仕作業は時宜に適したものとよろこばれている。

三太郎駅伝伴走記

松本　央

第二回熊日三太郎駅伝で、わが津奈木チームは第3位に入賞することが出来た。

おもえば十二月十二日、公民館でこの日あるを期して期成会を開き、農山保義氏を監督に選んで以来、われわれはすぐに組織的な練習に取りかかったものだ。このとき僕は森下紀裕君、前坂通君、斉藤誠君、徳富茂君、坂口成己君、本山君、津木君、その他の人々を知った。そして結局、この人達が津奈木町に三位入賞をもたらしてくれたのだった。またみんなが夫々仕事を異にしていて、集まったとき選手達も時間のやりくりに悩まされたっ。どうすれば速く走れるか——いろんな意見がとび出した。

しかし、結局走り込むこと、練習以外にないということだった。厳しくなってもわれわれの練習は変らなかった。コースは大体公民館から出発して、魔のカーブを登りあがってトンネル入口で折り返し下りを駅まで行って帰ってくるという十㎞のコースに決って来た。時も試合まであと二週間——丁度よい。

明けて、三日、この日われわれは全区間、水俣—白奈久鳩山折り返しの八十㎞の試走を試み更にそれを検討し、最後の仕上げに余念がなかった。その間の練習とて決して平坦なものではなかったが、全員ともよく結果し、自分に克って計画をこなしてくれたと思う。

この写真は三太郎駅伝に直接御協力下さった方々、この外に沢山の町民の御援助によって、六年ぶりに三等となることができました。厚く御礼申します。

かくてわれわれは試合にのぞんだ。

ところが二・三日前から風邪をこじらせていた草野民生君がこの朝になっても三十八度の熱がとれない。大事な七区、復路赤松太郎を走る正選手である。本人は走る、体は何ともないといい切るが、とても無理である。しかし変更するといっても、四十才の津々木君、三十才の長原君しかいないのである。悲愴な空気が流れ、それはまかの全選手にも伝わるのが分る。十㎞を走れといわれた長原君、津々木君の気持も分るというものだ。

開会式が始まり、われわれの本山三好君が高々と右手を挙げ、頬を紅潮させて選手宣誓を行った。前日の心配された冷雨も、今日は全く降る気配もなく曇り日、われわれの伴走車は混雑を避けるため式直後から初野バス停附近まで追い出された。一区、水俣、津奈木間を走る前坂通はどんな様子で走って来るのか。やがてオープン参加の熊本マラソンクラブ等の選手が素晴らしいスピードで走り過ぎた。来るぞ次第にたかまる凡奮を抑えることが出来なくなった頃漸く、みなれた姿が現われた。その数十米前を田浦マークの選手が走っている。前坂通二十二才、整ったフォームでちょこまかと歩を運ぶ。やがて田浦にぢりぢり迫ってゆく。やがて田浦にぢりぢり迫って桜戸手前で遂に半身リードした。沿道には見なれた顔が必死に旗をふる。監督がたまりかねて大声で声援をはじめる。「こら、前坂、津奈木にはいったぞ、スパートしろ！前を追え！いちにい！いちにい！」　そのまま一位で二区、津奈木太郎—芦北役場までの最長距離十三・五㎞の走者斉藤誠君へ赤タスキを渡した。通称マコちゃん十九才——これは幸かった。

役員会のとき初めての僕は全出場選手中の強敵をきいてみたらその大部分はこの最長区で時間を稼ぐためにひしめいているのだった。松村八郎（九州駅伝熊本県ボーブ、田浦チーム）宮永道博（日奈久チーム）福島兵蔵（芦北チーム）等々。「斉藤、自分のペースで走れよ。抜かれても気にするな！」何度も何度も監督の声が飛ぶ。遂に松村は津奈木ドライブイン前で一気に抜き去って行く。その憎らしい程、整った走り方——「斉藤！自分のペースで走れよ！……」毎日ともに練習したこのなじみ込んだ坂を津奈木トンネルに向って懸命に走って行く。独特の右手で音楽のタクトを振る様な、大巾な走法で。湯浦の直線にかかる辺りで今度は宮永直博がマコちゃんに迫る。タスキをとったのは一位であったのがまた抜かれるのである。思わず彼の心を想いやらずにいられなかった。「斉藤！自分のペースで走れよ。練習のつもりでついて行け！」何度も何度も叫びかける監督の声。彼は何を思っているのか。だが彼はペースを変えない。遂に佐敷駅前へと3号線を右折している。向うからの車は警官が止めている。ついに見えた。宮崎健二君が、盛んにウオーミングアップしを待っている。彼は赤いタスキを渡すと同時に倒れ込んだ。だが彼は自分の記録をうかも短縮しているのである。

甘夏蜜柑の活路

前号で、グレープフルーツの心配すべきことをのせたので、今度はその対策を書く順序となった。

そこで、農協を訪ねて、この道の専門家の山崎組合長と宮森管理課長に意見を聞いたのが本文です。紙面の都合で全部をのせられないのが残念です。（岡松）

その後のこと

○――グレープフルーツの問題点は、われわれ焦眉の問題ですから、何とか解決をつけねばなりません。御両人は農民の指導役の立場にあられますので、自由化に伴う蜜柑業者の進むべき道について御意見をお聞きしたいのでどうぞよろしくお願いいたします。

○――一時非常に盛んだったグレープフルーツ自由化反対運動が、今では聞かぬようですが、どうなっていますか。

山崎　国と国とが約束したことですから、ちっとやそっとの運動では取り消すようなことはしないでしょう。私たちは今でも農林省や大蔵省などに執念強く運動をつづけています。

○――時間がかかりそうですが、ウヤムヤしている中に四十六年がきてグレープがドシドシ輸入される時になってもなお、方針がきまっていないでは農民はあわれです。その辺についてのお見込みは……。

見込み

山崎　かりに万一自由化を阻止できなかったにしても、それにとって代る何らかの代償を取るつもりでいます。

今度の猛運動で、われわれ甘夏業者の窮状は十分認めたと思います。

政府も見殺しにすることはないでしょう。

○――聞いていて何だかたよりないお話のようですが、阻止できなかったと仮定してお話をうかがいます。代償としてどういうものを取りたいと運動してですか。

山崎　私たちが政府に強く要望していることは、「融資の利子を安くしてもらいたい できれば利子はまけてもらって元金だけ返すようにしてもらいたい」次に「借金の償却期間をのばしてもらいたい」など交渉中であります。

○――自由化阻止運動は見せかけで敵は本能寺、つまり今の話の方に重点があるようですね。

山崎　そこはっきりは申されませんが、どっちにころんでも、タダでは起きぬという両刀作戦で戦っています。

○――さて本道にかえって、蜜柑業者の前途についての御意見を…。

おそるるに足らず

山崎　私の立場でいうのはおかしなことですが、「グレープフルーツは恐るるに足らず」と思っているものの一人です。なぜならば、日本人の好みに合わぬと思うからです。グレープフルーツを輪切りにして、砂糖や蜜やウイスキーをかけて、スプーンで食うような面倒なことは日本国民にはむかないと思います。皮をむいてサッと食べられる甘夏がとれだけ日本人的かわかりません。

宮森　値段が安いからグレープを食うのであれば結果はおそろしいのでありますが、好みが日本的でないというのなら話がわかります。事実日本人には合わないようです。例えばピクニックなどにいって食う場合、とてもグレープフルーツなど面倒で食われたものではありません。やはり甘夏など食うのがピッタリしているようです。

勝つために

○――楽観ばかりもしていられませんので、更に話を進めさせてもらいます。

グレープが入ってくると、しょせん甘夏とケンカになります。ケンカなら勝たねばなりません。それには第一に美味でなければなりません。第二に安くなければなりません。先ず美味にすることについてはどう御指導になりますか。

山崎　今の甘夏より美味しい新品種ニューセブンというのができています。それを在来種と交代させていく方法と、次は肥料で味をよくしようという方法です。

宮森　それで声北の生産団地では協議して、製品の統一と味の向上をはかるために、肥料の統制をしようということになっています。

山崎　つまりその土地に応じて肥料を施す。先づ土質を一枚一枚診察します。そして、その土地のカルテを作ります。そのカルテによって肥料を調合します。そう調合してくれる肥料工場が八代の鏡にある大東肥料工場です。つまり声北の指定工場です。

宮森　今までは、勝手に買い、勝手に施していたので、味もマチマチでしたのが、これからは郡産蜜柑の味が統一され、且つ味が向上してきますので市場価格も上ろうとの計算です。

安くするために

宮森　大農式にならぬと安くはありません。薬剤散布にしても、空からヘリコプターでやるようなことをやらぬと……。

山崎　安い、うまい甘夏を作ったら、グレープフルーツなど何ら恐るるに足りません。

○――声北海岸地帯は日本一日本一の蜜柑導地であると思います。なぜなら蜜柑は温帯が原産地です。熊本県は静岡・和歌山・愛媛（いわゆる御三家）より温暖の点で、温暖なところを好む植物です。すでに勝っている。鹿児島県は温暖では熊本県よりは上ですが、土質がシラス地帯であるため、蜜柑の適地ではない。声北海岸の赤土がかった土地はどこにもないと思います。これは私の結論ですが、たしかに日本一の土地柄であるという私の結論を証明してくれる話はありませんか。

山崎　有名な日園連の高橋さんが発表されたのに

「静岡・和歌山・愛媛などが蜜柑の産地というが、全国的にみて蜜柑の産地といえば九州である。九州でも熊本県が一番適地だ。もし熊本県を中心にしてオレンジベル地帯をつくれば静岡などの先進地は太刀打ちできない」と、この道で日本一の高橋さんが熊本県に折紙をつけています。

山崎　鹿児島・宮崎より勝れているのは、まひとつあります。この両県は台風の常襲地帯で熊本県はさほどまでないのが有利です。蜜柑にとって台風はこわいです。

水鳥におどろく

宮森　蜜柑に一番よい土地にめぐまれながら、蜜柑に憂想つかそうとしているのは残念なことです。それもがグレープフルーツの自由化によってでありましょうが、指導者がこんな間違った考え方を立て直して、自信をもって指導すべきと思います。

○――今のお話から思うのですが、グレープフルーツ自由化絶対反対の旗印しのもとに、全国的に猛運動の渦巻きをつくりましたが、農民では「グレープフルーツの輸入がそんなに恐るべきものか」と感じとり、前途に不安をおぼえ、やがては蜜柑栽培に絶望さえ感ずるようになったのではないでしょうか。これは予期しない逆効果ですね。

山崎・宮森　同感です。

団結の威力

山崎　その反面、予期しない好結果が生まれました。それは、今まで、個々バラバラで、どうしても統一のとれなかった農民がこのグレープフルーツを機会に一致団結しました。初めてのことです。そして農民も団結すればどんな大きな問題でもできるものだということを認識したのは何よりの大きな効果といえましょう。

御三家主義の打破

山崎　こんなことがあります。日園連の役員は、主として先進県、つまり御三家から出ています。今度のグレープの自由化にしても、

（三面に続く）

ただ前進あるのみ

津奈木町名物　成人式

津奈木町名物とは、西日本新聞水俣支局中尾進氏の新聞記事。

ベーロンが夏の名物なら、成人式はその名物か！

一月四日五日にかけ、百二十人参加して夜は中学校講堂でキャンドルサービスとゲーム。同夜は公民館に合宿、五日は雪、外での行事（体操・御飯たき・奉告祭等）はできなかった。万歳で解散。

内職のすすめ　大島つむぎ織り

○収入　普通月に二万円、上手な人は三万円もあげる。出来高と品の良し悪しによって収入はきまるので、一がいにいえない。良い製品を早く織り上げる人は収入が多いというわけ。

○作業場所　なるべく一ケ所でしてもらいたい。その場所は、今の津奈木小学校（移転したあと）

○見習　練習は会社から講師がきて三ケ月ばかりは無料で教える。

○勤務　きまっていない。さしつかえがあればおそく来てもよいし早く帰ってもよい。いそがしければ休んでもよい。

○年齢　若い人ほどよい。四十歳以上でも……手先きの器用で長続きのできる人は五十歳でもよい。男でもよい。

○申込み　日傭とりには向かないさりとて遊んでいるにはもったいない、という人には適当な仕事ではないかと思う。

○申込み期限　二月末日まで

○書式

㈠氏名　㈡年齢　㈢住所　㈣家族状況（続柄、名前、年齢、職業）

○宛先　役場経済課長林田貞夫

○備考　申込用紙は経済課長のところに用意してあります。

人生の山登り

（成人になっての感想）

赤崎　開田扶美子

今日、五日の成人式典が終った途端、私の頭に、胸に、最初に浮かんだこと、それは二つ。

母の顔と、そして、未来に向って両手を大きく伸ばしている私の姿と。

不安と嬉しさとの感じが入りまじって、何ともいいようのない感じでいっぱいになっていた。

「おめでとう」といわれても、ピンと感じるものはないけれど「一人前なんだよ。おめでとう」の気持ちで受けとると、「ありがとう」の返辞にも緊張してくる。自分自身のことを、いつもまだ精神的に子供っぽさでいっぱいだと思っている。

考えること、行動していることが、時には聞いていて、見ていて笑いたくなる人もあるだろう。精神的に大人として育ってゆきたい。

今、私は人生の山を登るのに、リュックサックやピッケルなどを用意したところかもしれない。今からそのリュックサックの中に、いろいろなものを詰めなければいけない。どうしたら危険の少ない山登りができるか、山の天候は変わりやすいから、その勉強もしなければいけない。

私の前途は厳しいだろう。足をふみ外すかもしれない。とにかくしっかりやらなければいけない。

糸まきとり機の発明

津小四年

松田砂代子
芦浦えり子
白坂　豊子
西村伸明教諭

「創造」、このことばは、現代の生活から忘れ去られようとしているものの一つと言っても過言ではないと思います。

創造することは、一個の人間を考え深くし、科学的な思考力を養うものであるばかりでなく、現代社会にとって大いに考えて行かねばならぬことの一つでもあると思います。

そう言えば、創造すると言うことは、改まって取り組まなければできないもののように考えがちですが、そうではなく、創造するための素材は、毎日の生活の中にいくらでもころがっているものであると思います。即ち、

「こういう物があったらなあ。」「どうしたら便利だろう。」とか言ったところにあるものです。ただ、それを考え、工夫してみようとする心構えがあるかないかであろうと思います。

全国発明展は、このような創造し、暮しを豊かにする心構えと実践力を国民一人一人が身に付けると共に、いくらかでも社会に寄与することを目的としたものであります。

そこで、今回の全国展に出品いたしました「毛糸巻取機」は、何も全国展に入賞することを第一の目的としたものではなく、この催しを利用して、いくらかでも児童達が、創意工夫することを目的として参加することを考え実践していこうとするように指導してみました。

写真は、県発明展で「熊日賞」となった自分達の作品をバックにした喜びの児童達三名です。

（西村伸明）

「つゆの観察」

赤崎小六年　浜田隆博他五名は郡で特賞、県ではジュニア賞であったことをお知らせします。

（二面より続く）

役員出身の県に関係のなかったことから生じた問題です。（甘夏は主として九州）いいかえると九州から（あるいは熊本県から）役員が出ていたら、こんな問題は起らなかったのです。

これからさきは、われわれ蜜柑業者が苦汁をなめぬため九州を中央に押し出さねばなりません。そうするには日園連に役員を送り出さねばならぬ。それも九州が団結なくしてはできることでありませんと思えば残念でなりません。

さて、今後の問題です。

宮森　熊本県は熟蜜主産地形成地を長崎県から奪い、熊本県から声北が貰って、ヤレ選果場、ヤレ柑きつセンターと、莫大な費用をつぎ込んで、これから大いにやろうというとき、グレープフルーツの自由化の声におびえて、また見もせぬ適をおそれ、愛情を注いだ蜜柑の木を、うとんずることはおかしいと思います。

政治運動には裏と表とがあります。表面に出していることと、裏で考えていることは違うことはしばしばあるものです。そんな運動はその道の人にまかせて、生産者は、生産に一生懸命がんばればよいのではないですか。

ただ前進あるのみ

○　まず津奈木で団結することが第一段階で、これなくして大きい団体の組織はありえません。甘夏が先進県の組織にやりくられた……と思えば残念でなりません。

さて、今後の問題です。

宮森　熊本県は熟蜜主産地形成地を長崎県から奪い、熊本県から声北が貰って、ヤレ選果場、ヤレ柑きつセンターと、莫大な費用をつぎ込んで、これから大いにやろうというとき、グレープフルーツの自由化の声におびえて、また見もせぬ適をおそれ、愛情を注いだ蜜柑の木を、うとんずることはおかしいと思います。

政治運動には裏と表とがあります。表面に出していることと、裏で考えていることは違うことはしばしばあるものです。そんな運動はその道の人にまかせて、生産者は、生産に一生懸命がんばればよいのではないですか。

山崎　これまで永い間、労力とお金をつぎ込んだ莫大な資本をムザムザ捨て去るわけにはいきません。この資本の上に更に積み上げて、この道を続けていくより外ないではないですか。

第二次農業構造改善事業を県では津奈木町を指定したそうです。これを積極的に利用することがこれからの生きる道と思います。どうせ乗りかかった船です。何億の金を補助し、融資する金を使って、貯蔵庫を作り、農道を作り、水源の確保などをして、コストダウンして、所得の増大をはかるべきではないでしょうか。

転機のとき

○――グレープフルーツの問題が起らなかったら、心の立て直しもなくファイトも生まれず、設備向上改善も生まれなかったかもしれません。グレープフルーツは、蜜柑業者に一大勇猛心を起させ、機会を与えてくれたものとして感謝しましょう。そしてこの道の躍進をはかりましょう。どうも有難うございました。

終りに　政府も、農業は経営規模を大きくする方向を示していきます。

そこに小規模経営者はどうなるかという問題がのこります。その問題も意見を聞きましたが、それを載せるとすれば多くの紙面を要しますので省きました。これは第二次構造改善が進めばうまく解決されそうであります。